

# ヒガシムタ



## 東無田地区の位置

益城町中心部から車で10分ほど南へ離れた微高地に位置する、都市近郊農村集落。





# 東無田地区に走る断層

## 日本 活断層図

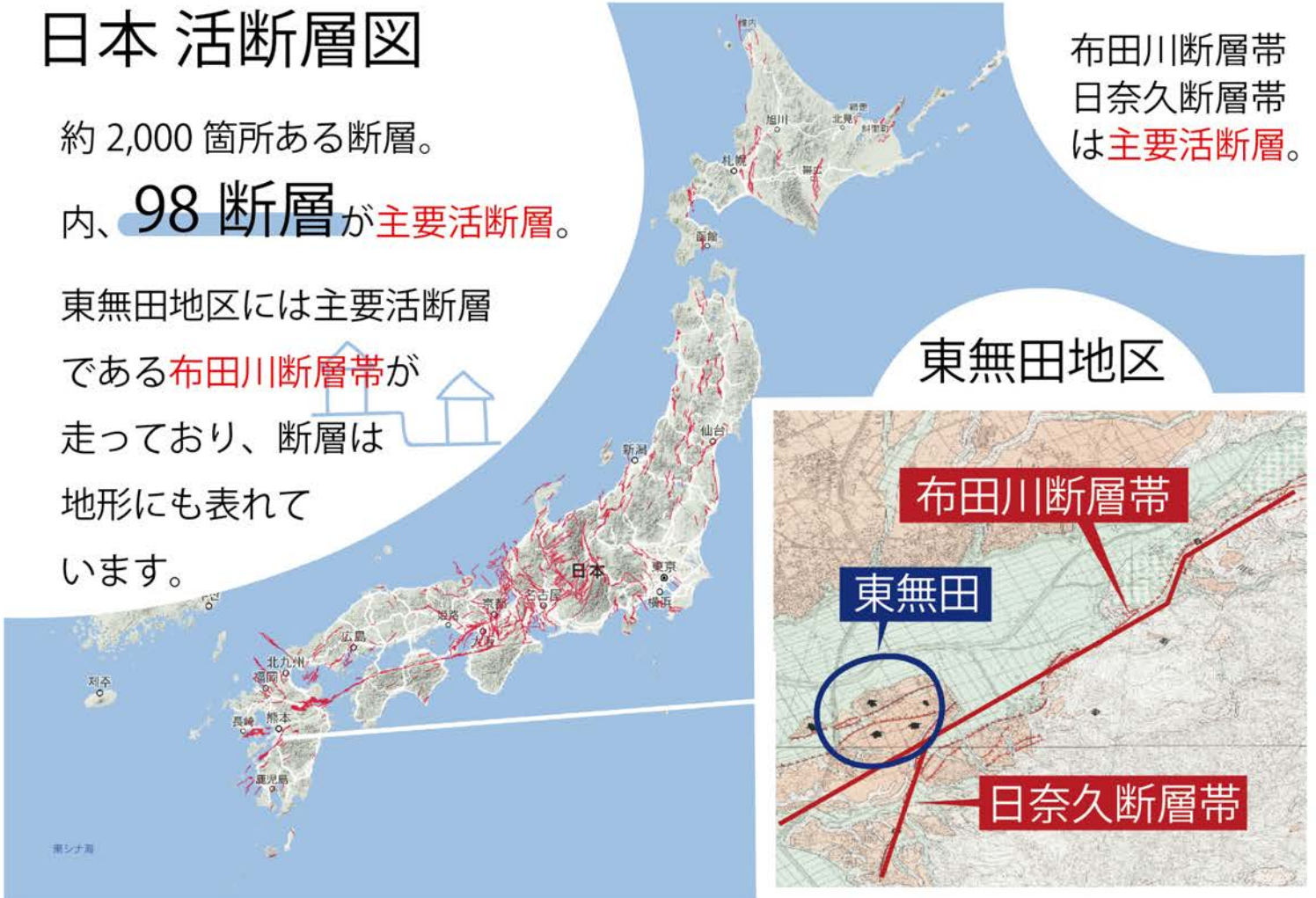
約 2,000 箇所ある断層。

内、**98 断層**が**主要活断層**。

東無田地区には主要活断層である**布田川断層帯**が走っており、断層は地形にも表れています。

布田川断層帯  
日奈久断層帯  
は**主要活断層**。

### 東無田地区





## 熊本地震での被害

地震前



地震後



家屋の全半壊率 約 7 割 / 人的被害（死者） 1 名



4/16 午後、飯野小学校の一角を避難所として確保。  
集落内の高齢者を優先し、消防団の送迎により、約  
70 名が飯野小学校へ避難した。

東無田地区の特徴は軒先避難者が多かったこと。

4 月下旬、  
東無田地区には約 200 名が帰ってきており、  
集落内で避難生活を送っていた。



神社境内に支援基地



地震直後、\* 軒先避難者が多く、お互いが助け合って避難生活。

\* 軒先避難  
避難所には行かず自宅の軒先や庭先に避難していること。

消防団とその家族で1ヶ月間炊き出し



食べるものも少ない。温かい食事を提供したい。軒先避難をしている住民約200名のために、1ヶ月間もの間、炊き出しを続けた。炊き出しは東無田住民だけでなく、近隣の集落の住民にも配布した。

有志住民とボランティアでテント70張りを建てる

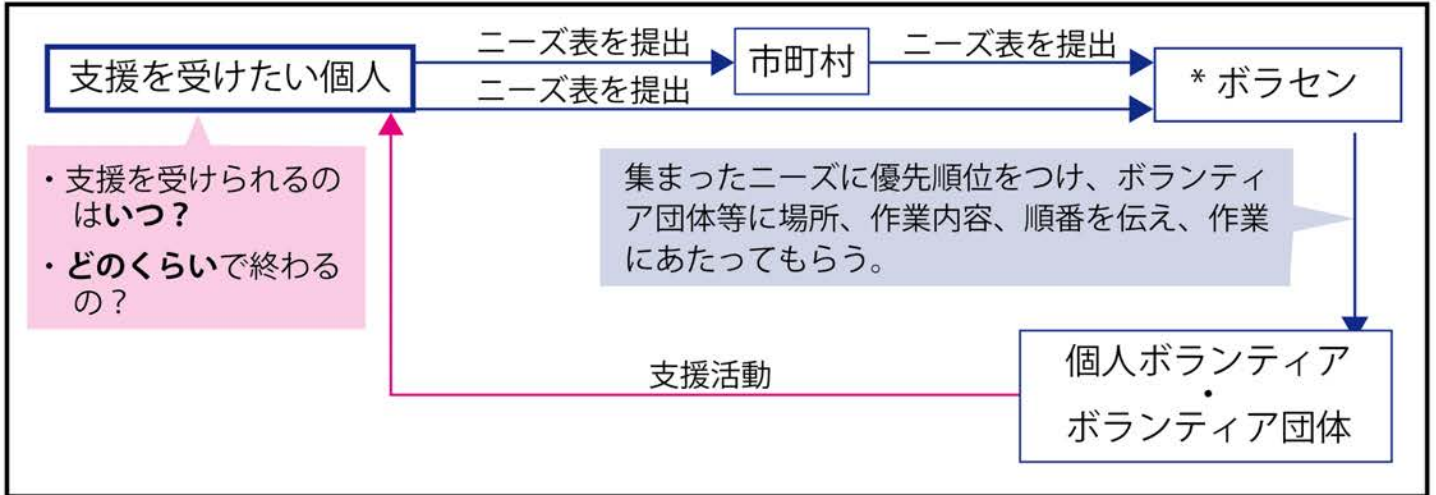


車中泊が多い状況の中で、全国へ支援を呼びかけ、約70張りのテントをボランティアとともに住宅の敷地内に建てた。直接地面に建てないようにと、底上げの土台から作り、一張りに約2時間かかることも。

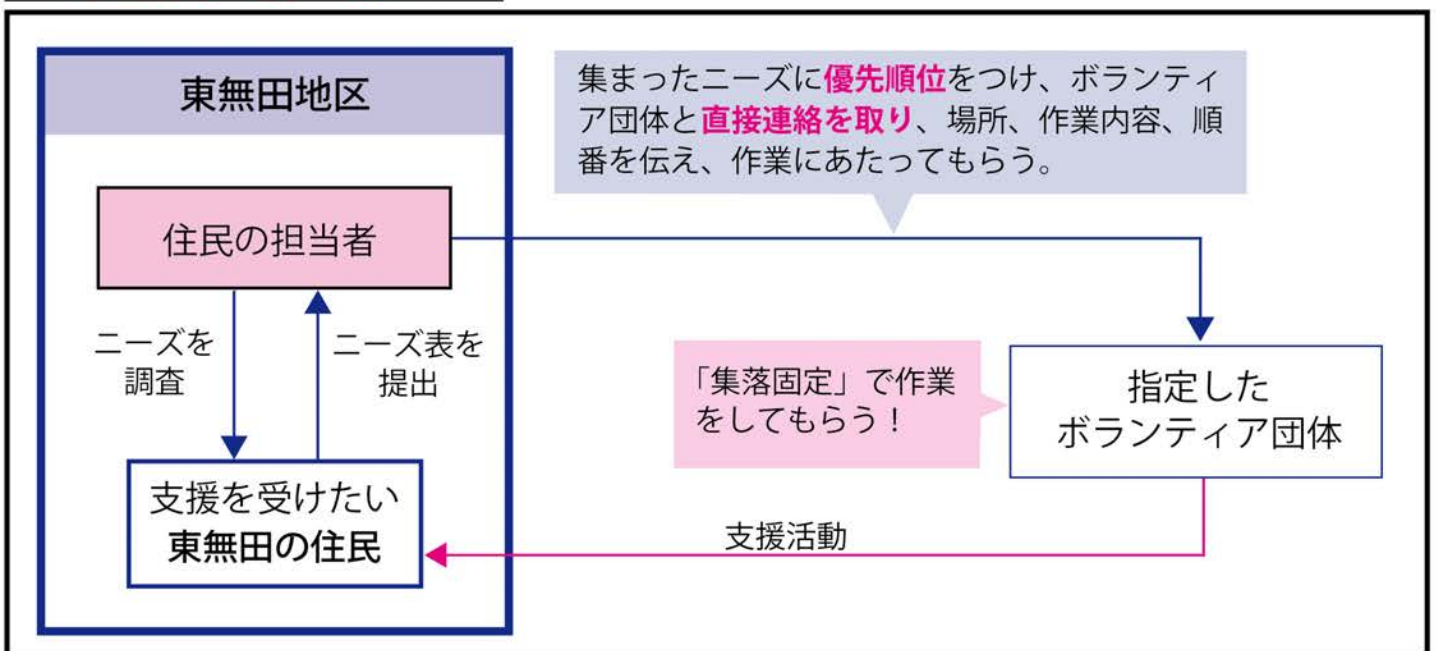
# 東無田ならではの。 ボランティアの受け入れ方法

## 一般的な流れ

\* ボランティアセンター



## 東無田独自の方法



- ・ いつ支援を受けられるのかが分かる！
- ・ ボランティア団体の作業効率化にもつながった！
- ・ ボランティア団体と密な関係づくりができ、より手厚い支援を受けることができた！
- ・ 貴重品の取り出し作業を行ったため、家屋の解体作業が他地域よりも早く進んだ！

さら

作業内容にも優先順位を設け、下記の順番で作業を行うように各作業ごとにボランティア団体も選定・指定した。

- ①農機具等を取り出す重機ボランティア  
→東無田の基盤である農業の再開・復旧のため。
- ②貴重品等を取り出すレスキューボランティア  
→倒壊家屋の中から、貴重品や衣類などの生活必需品の取り出し作業。
- ③瓦礫処理のための一般ボランティア  
→最後に、敷地内などの瓦礫処理、片付け作業。



# 東無田復興委員会の立ち上げ

H28年  
4月

熊本地震発生

H28年  
6月

東無田復興委員会  
立ち上げ



△ 会議の様子

積極的に動いて自分たちの地域の復興を後押ししたい！

復旧作業が一段落したところ、復興へ向けた活動を行う為、  
復旧・復興を支える中心的存在が集まり、復興委員会を設立した。

住民・集落が **元気** になるための活動

心

郷土愛・地区のまとまりを醸成  
復興に向かう力を引き出す

経済

新たな  
なりわい  
生業

東無田八幡宮  
の修復費用

H28

4月

● 14・16 地震発生

6月

● 中旬 東無田復興委員会結成

### 経済 新たな生業 サークル絆結成

高齢女性のグループ。震災後、下ばかり向いてられないと活動を開始。踊りの講師をつとめる住民にならない踊りを楽しみ、倒壊家屋から取り出した着物などを使ってポーチ等の小物を制作・販売している。高齢女性の生きがいとなっており、売り上げの一部は東無田八幡宮の再建資金へ。



8月

● 24 心 東無田復興夏祭り  
住民の結束力・団結力向上と、支援者の方々への感謝を伝える場として開催。多くの住民が久しぶりに顔を合わせた。



9月

● 29 東無田仮設住宅 入居開始



HIGASHIMUTA RECONSTRUCTION COMMITTEE

# 東無田 活動の数々

11月

12

## 経済 お宮修復費用 スタディーツアー開始（第一回開催）

お宮の再建・修復費用を得ること。震災体験談や災害に対する備えなどを伝え、考える機会を創ること。地域の魅力を伝えることで交流人口を増やすことを目的としている。H30年4月時点で、約1000人の方が参加。



H29

2月

初旬

## 経済 お宮修復費用 東無田写真集 発売

南阿蘇の写真家 長野良市氏の協力を仰ぎ、熊本地震被災地では「ゼロの阿蘇」に続く写真集として販売。売上げ金の一部は東無田八幡宮の再建費用に当てられ、H29年7月現在約2500部販売している。



5月

14

## 集落の未来 まちづくりワークショップ開始

住民主体のまちづくり計画の策定を目指し、専門家を招き勉強会を実施し、意見交換を行う。一度目は集落の理想の未来を話し合い、二度目ではそれらの実現のために、災害公営住宅の立地などを話しあった。



6月

24

## 心 宮ごもり

昔からある女性たちの集いを復活させ、集落の子育て世代のコミュニティーの構築や強化を目指し開催。集まりの名前を「ゆるふわ」とし、ゆるく、誰でも気軽に集まれる会や活動にしていこうと話した。





8月

26

## 心 夏祭り

今回は住民の団結や勇気。そして子供達へのメッセージが込められ開催された。開会には子ども神輿が集落内を練り歩き、子供達の元気な声が集落に響き渡った。住民が出し物を披露し、大盛況に終わった。



## 経済 新たな生業 マルシェ

住民手作りの竹細工や野菜を販売。東無田集落の住民の新たな生業になればと、イベントごとにチャレンジを繰り返している。竹細工も季節ごとの野菜も好評であり、すぐに売り切れることも珍しくない。



11月

12

## 心 東無田大人食堂

高齢者や独居老人の食をテーマに、熊本県立大学の学生と協力し食堂を開催した。メニュー作りからこだわり、特に普段表に出てこず、食生活が心配される方を中心に声をかけ、総勢 23 名の方に食事を振る舞った。



13

## 心 歴史を学ぶ座談会

東無田八幡宮や集落の歴史を学び、郷土愛を育み、集落の持続可能性を高めることを目的に開催。講師には近隣の浮島神社の宮司と、東無田で代々続く宮崎家の方を招いた。参加者からは継続してやってほしいと声が挙がった。





12月

04

## 経済 新たな生業 わら納豆講習会

東無田のおばちゃんたちを先生に、外部の方も一緒に藁づとを編むところから実施。初めて経験する参加者がほとんどで、先生たちの技を習いながら完成。完成したわら納豆は後日参加者や地域住民に配られた。



H30

2月

11

## 集落の未来 まちづくりワークショップ（公園計画）

住民から声の挙がっていた「集落内の公園」について、模型を用いて立体的に話し合い、東無田の資源を生かしつつ、住民が楽しく集まり交流し、災害時にも機能するような要素を設けるアイデアが出された。



まだまだ続く東無田の活動を見守ってくださると嬉しいです。

活動等は東無田復興委員会のホームページや Facebook にて更新しています。

ぜひ、のぞいてみてください。（イイね！もお願いします ^^）

HP <http://higashimuta.com> 🔍

f 東無田復興委員会 🔍



# 最後に、皆さんにお伝えしたいこと

## 震災を経験し、私たちができたこと

### ○消防団の活躍

### ○共助の機能：農村集落のつながり、古くからの仕組みが生きている。

→ 組（集落内部に結成される、数十軒からなる近隣的な相互扶助集団。  
一般的に親族、親類以上の広い範囲の近隣集団で構成され、  
東無田集落内は4つの組により構成されている。）

区役（集落内の清掃作業等）

行事（球技大会、どんどや、七夕等）

祭事（村祭り、宮ごもり、水神祭り、地藏祭り等）

組織（老人会、消防団、子供会等）

### ○受援力の発揮

受援力（支援を受ける力）とは、ボランティアなど外部支援者を地域で受け入れる環境・知恵など。被災地側からどのような状況であるのか、どのような支援がほしいのかなどを積極的に伝えることができるようになっておくこと。

## お願いしたいこと

### ○自助、共助が成り立つ地域づくり

都会や市街地では転入・転出が活発なため、古くからのつながりや仕組みが無い場合が多い。普段から顔見知りになっておく、周囲を把握しておくことを心がけてほしい。

### ○大規模災害の時、すぐに（高齢者・弱者の）支援ができるのは若者である。

### ○仮に被災者であっても、若者には支援者側の立ち位置に立って行動してほしい。

### ○受援力を高めてほしい。



① 調べてみよう！

- 主要活動断層
- 軒先避難者
- ボランティアセンター
- 消防団
- 交流人口
- 共助
- 受援力

自由記述・メモ欄

○無断複製・転載禁止

無断で行った場合には、罰金となります。  
転載等をご希望される方は、一度ご連絡ください。

○制作・発行

東無田復興委員会 (higashimuta@gmail.com)

○制作協力

熊本県立大学 環境共生学部 居住環境学科 柴田研究室